

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2022年8月7日（日）

主 題：「互いに愛し合ひましょう」

一新 生一

テキスト：第1ヨハネの手紙3章8～12節

### はじめに

・お早う ございます。

・私たちの持つ「信仰」とその「歩み」、それは「じつは、一つなのです」  
(前回のテーマ)

私たちイエスをキリスト（救い主）と信じる者の魂は、恵みによって救われました。しかし一方では、私たちは罪の性質を持つ肉を宿としています。そこには戦いがあります。

・では、どうすれば良いのでしょうか。どうすれば、信仰と歩みにおいて勝利を得ることができるのでしょうか？ 聖書は完全なお方であるイエス・キリストと「くびき」を負い、ともに歩むことが大切と教えています。イエスは言われました。 **マタイの福音書11章**

11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

・今日のテキストは、その「信仰」と「歩み」の続きであります。

著者ヨハネは「信仰」と「歩み」について、さらにその戦いについて語りました。2点

### 大切なポイント

#### 1. 人は歩みによってわかる

##### 1) 罪を犯す者

3:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。

・ここに書かれている「罪を犯している者」とは、罪の内を歩む人のことです。その人は「悪魔から出た者です。」とヨハネは言いました。厳しいことばです

ね。それは生まれつきの人間の姿のことを指しています。

- しかし、ここで聖書の述べる罪について考えましょう。  
私たちは一般的に罪という言葉を知ると、悪事を働いたことを考えますね。もちろん、悪事は罪であることに違いありません。しかし聖書の教える罪とは、原語で「ハマティア」(hamartia: 的の外れ) という意味です。創造神という「的」から外れてしまった結果、悪い思いを持ち、悪い方向へ向いてしまいます。たとえば、他人の物を黙って盗んでしまうこと。聖書はそれを「咎」と呼びます。
- すなわち、創造神によって造られた人間が神というお方(的)に向かい、神とともに歩むべき存在が、「的」から離れて(「的の外れ」、それが罪)しまいました。それは生まれつきの私たちの姿です。聖書は次のように述べています。

ローマ人への手紙 3 章

- 3:10 次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もいない。
- 3:11 悟る者はいない。神を求める者はいない。
- 3:12 すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。」
- 聖書は、世の中に、だれ一人正しい人はいないと断言しています。生まれつきの人間は、みな罪を持っています。その人間の集まりで社会は構成されていますから、悪が支配しつづけているのです。
- しかし、ヨハネは次のように断言しました。  
3:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。
- ここに罪と悪魔の関係が記されています。  
悪魔はかつて神に従う存在でしたが、神に背を向け反逆しました。そして人間を誘惑しました。悪魔ははじめから罪を犯している、と聖書は語っています。

## 2) 罪からの救い

- しかし、その悪魔の力を破り、悪魔に勝利をおさめるためにイエス・キリストが来られました。イエスは十字架にかかれ、悪魔の頭を砕かれました。だれでも、イエスを信じる者は、悪魔に勝利するものです。  
3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。
- イエスを信じる者は、だれでも神の子となります。そして、その人は新しく造られた人です。伝道者パウロ次のように述べました。2 コリント 5 章  
5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造ら

れた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

- その人は罪と悪から解放された人です。なんとという幸いでしょうか。  
そして「神の種がその人のうちにとどまっている」のです。神の種とは、聖書のみことばです。 1 ペテロの手紙 1 章  
1:23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。
- だから、その人は「罪のうちに歩まない」のです。いや、その人は神によって生まれたので、罪のうちに歩むことができないのです。ヨハネは 5 章で次のようにも述べました。  
5:18 神から生まれた者はみな罪を犯さないこと、神から生まれた方がその人を守っておられ、悪い者はその人に触れることができないことを、私たちは知っています。
  
- 3:10 このことによって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。義を行わない者はだれであれ、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。
  
- 皆さん。神の恵みによって神の性質をいただいたのですから、どうして昔ながらの生活ができませんでしょうか。ローマ人への手紙 6 章は次のように語っています。  
6:1 それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。  
6:2 決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるのでしょうか。
- 皆さん、ここで言えることは、私たちが本当に神の子であるかどうかは、その「歩み」によって分かるということです。具体的には、その人の家庭、職場、学校など日常の「普通の間」での生活ぶりを見れば現れます。

## 2. 兄弟愛に生きよう

- 3:11 互いに愛し合うべきであること、それが、あなたがたが初めから聞いている使信です。
- この大切な教えは、イエス・キリストを信じた時から、繰り返し教えられています。それは兄弟愛を行わないならば、義を行っているとはいえません。そのような者は神から出た者ではないのです。
- ヨハネはここで、創世記 4 章に出てくるカインの例を上げました。

## 創世記 4 章

- 4:1 人は、その妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「私は、【主】によって一人の男子を得た」と言った。
- 4:2 彼女はまた、その弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは大地を耕す者となった。
- 4:3 しばらく時が過ぎて、カインは大地の実りを【主】へのささげ物として持って来た。
- 4:4 アベルもまた、自分の羊の初子の中から、肥えたものを持って来た。【主】はアベルとそのささげ物に目を留められた。
- 4:5 しかし、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それでカインは激しく怒り、顔を伏せた。
- 4:6 【主】はカインに言われた。「なぜ、あなたは怒っているのか。なぜ顔を伏せているのか。
- 4:7 もしあなたが良いことをしているのなら、受け入れられる。しかし、もし良いことをしていないのであれば、戸口で罪が待ち伏せている。罪はあなたを恋い慕うが、あなたはそれを治めなければならない。」
- 4:8 カインは弟アベルを誘い出した。二人が野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかって殺した。

- ・カインが弟アベルを殺した根本的原因是、彼が「悪い者から出た者」であって、神から出た者ではないからです。カインは自分の行いが悪く、兄弟の行いは正しかったから、弟アベルを殺しました。これはまさに、「妬み」でした。カインは「妬み」の罪に支配されました。
- ・ここで、私たちが理解しがたいことがあります。  
兄カインは農作物を捧げ物として持って来ました。弟アベルは羊の初子の中から肥えたものを捧げ物として持ってきました。どこに違いがあるのでしょうか。神は人を創造して大地を耕すように命じられました。

## 創世記 2 章

- 2:15 神である【主】は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。

- ・きっとアダムも地を耕したでしょう。ですから、農耕自体を否定したのではないと思います。それに後の律法では、作物を献げることも定められています。
- ・そこで教えられることは、献げ物自体が問題ではなく、献げた人自身を代弁するような献げ物に対して、主が受け入れるか否かを決められたことです。  
すなわち、献げる物の生き方をご覧になられたのでした。
- ・ヨハネは次のように言いました。

3:12 カインのようになってはいけません。彼は悪い者から出た者で、自分の兄弟を殺しました。なぜ殺したのでしょうか。自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです。

- ヨハネも「自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです。」と言いました。

献げる者の「生き方」を、神はご覧になられました。神は人の内側をご覧になられます。生まれながらの私たちの内側には、「ねたみ」という肉の思いがあります。

- そのような肉の性質を持つ私たちに、神は「すばらしい愛」を与えてくださいました。イエス・キリストです。イエスによって、私たちは古い私ではなく、新しい私に変えられました（新生）。この新生の事実が、私たちの生き方を変えてくれるのです。
- 義の生活、それは神から生まれた者のみに可能な歩みです。

{例 話}

- 初代教会時代のことですが、ローマの五賢帝の一人トラヤヌス皇帝（在位 98～117）の時代です。この時代は、たぶん現在の新約聖書の最後が書かれた頃でしょう。まさしく初代教会時代です。
- 小アジアのプリニウス総督が、次のような報告形式の手紙をトラヤヌス皇帝に送りました。  
「皇帝！ 私は部下の数人をクリスチャンに偽装させ、教会へ潜入させました。部下たちは洗礼を受け、クリスチャンと生活をしながら、彼らの一挙手一投足を調べました。
- 報告によれば、クリスチャンたちは昼も夜も集まるたびに、イエス・キリストを賛美しているそうです。また、頻りにパンを分け合い、ぶどう酒を飲みながら楽しんでいるそうです。
- それに実に理解しがたいことは、彼らは迫害者のために祈っていることです。皇帝！ 彼らはローマの役人と皇帝のためにも祈っています。また何よりも明らかなことは、彼らが互いに愛し合っていることです。」

- 愛する皆さん！ スパイたちには、クリスチャンはこのように映ったようです。これは初代教会時代のクリスチャンの姿でした。私たちはどのようなものなのでしょうか。生まれながら肉の性質を持っている者が、イエス・キリストの恵みによって、救われました。それは愛されている者の証拠です。
- 私たちは愛された存在です。ですから、ヨハネが勧めたように、「互いに愛し合う者」とされました。ただ感謝であります。

ま と め
-------

主 題：「互いに愛し合ひましょう」

—新 生—

- ・今朝も、主は私たちにお語りくださいました。  
ヨハネは初代教会時代の聖徒たちに、互いに愛し合うことを勧めました。  
それは神に愛され者が、今度は互いに愛し合うという歩みに生きるためでした。
- ・私たちも同じように主に愛された者として、互いに愛し合おうではありませんか。
- ・最後に次のみことばをお読みし、お祈りしましょう。

3:11 互いに愛し合うべきであること、それが、あなたがたが初めから聞いている使信です。

\* God bless you!